



近代文学講義

—結婚をめぐる問題篇—

—結婚をめぐる問題篇—

[illegible][illegible]

『伝染るんです』 4巻 吉田戦車 一九九四年

『伝染るんです』 4巻 吉田戦車 一九九四年

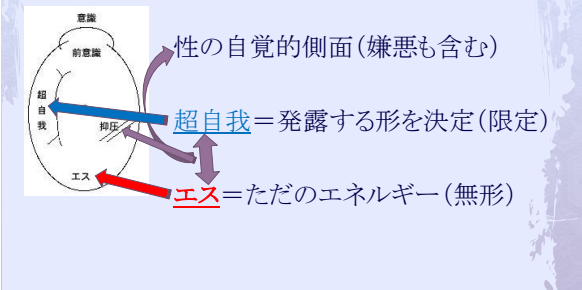
娘→妻→母

わたしを名づけないで
娘という名 妻という名
重々しい母という名でしつらえた座に
座りきりにさせないでください わたしは風
りんごの木と
泉のありかを知っている風

わたしを名づけないで
娘という名 妻という名
重々しい母という名でしつらえた座に
座りきりにさせないでください わたしは風
りんごの木と
泉のありかを知っている風

超自我 は ある形を要求する

The diagram illustrates Freud's model of the psyche, represented as an oval divided into three horizontal sections: **意識** (Consciousness) at the top, **前意識** (Preconscious) in the middle, and **抑圧** (Repression) at the bottom. A vertical line separates the conscious/preconscious area from the unconscious area. The **超自我** (Superego) is located in the conscious/preconscious area, and the **エス** (Ego) is located in the unconscious area. A blue arrow points from the Superego down to the Ego, labeled **超自我 = 発露する形を決定(限定)** (Superego = determining the form of expression (limitation)). A red arrow points from the Ego up to the Superego, labeled **エス = ただのエネルギー(無形)** (Ego = just energy (invisible)). A purple arrow points from the Superego to the right, labeled **性の自覚的側面(嫌悪も含む)** (Sexual conscious side (including aversion)).



美人？ 美男子？

参考 [映画「座頭市」](#)より



参考 [映画「座頭市」](#)より

オオカミ少女

表1 動物に育てられた子供の事例①



1922年に北インドでオオカミの育てられた少女二人が発見された。

写真はカマラ

事例の名称	発見の年	発見時の年齢
ヘッセンの狼少年	1344年	7歳
ウェンツラングの狼少年	1344年	12歳
リトニアの最初の狼少年	1601年	12歳
アルランドの最初の狼少年	1672年	16歳
ペンベルクの子狼少年	1680年頃	10歳
リトニアの三番目の狼少年	1694年	12歳
リトニアの三番目の狼少年	1694年	18歳
カルベン (ハンガリー) の狼少女	1767年	22歳
ザルツブルクの狼少女		
オーバーダイクの狼少年クレメン		
オーバーダイクの狼少年		
クロンスタットの狼少年		23歳
南アフリカのひび少年カ	1804年	
インドの狼 (Jamlihera) 少年	1820年	
ドナブルのカマラ	1920年	8歳
ミミ	1920年	2歳
最初の豹 (leopard) 少年		
インドの狼少年		8歳
イギリスの狼少年		
シリアの狼少女	1946年	
モリタニアの狼少年	1960年	
テヘランの狼少年	1981年	14歳

生涯言語を介さなかった少女は、生涯「性」を発現しなかった

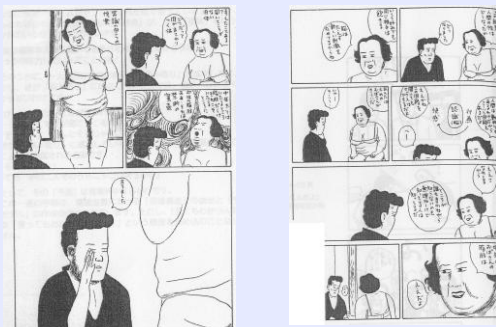
まとめ

- ①、人間の性は、本能ではない
- ②、人間の性は、言語世界の参入によって生まれる
- ③、人間の性は、母親の代替である

くだらなさですが大事な事例



くだらなさですが大事な事例



セックスとジェンダー

セックス＝ 生物学的 (科学的)

→ **本質主義**

ジェンダー＝ 社会的 (歴史的) に決まっている性区分

→ **構築主義**

全ては、生まれた社会と時代によって偶然決まっている！

本質主義＝変えられない 構築主義＝変えられる

セックスとジェンダー②

ジェンダー＝社会的 (歴史的) に決まっている性区分

→ **構築主義**

全ては、生まれた社会と時代によって

偶然決まっているにすぎない！

- (例) 男＝働く 女＝家事
 男＝何もしない 女＝化粧する
 男＝見る 女＝見られる
 男＝中身 女＝外見

「ジェンダー」概念の限界

ジェンダーの区分の境目は、あいまい。

男らしさ……

やさしさ？

見た目？

女らしさ……

でも、どちらか一方に分類してしまう。

セクシャリティ①

性自認=セクシャルアイデンティティ

自分は、社会のジェンダー規範に
どう合わせて生きてゆくかの選択

オリエンテーション=性の指向性

- ①、一方向とは限らない
- ②、同じ人でも時によって変わる

セクシヤリティ②

	男	中間	女
性自認			
性志向			
男	●		●
両方	●		
女			●

ヘテロセクシャルイズム

言葉の問題

- 区分(ホモ・オカマ・ゲイ)などの区分は無意味(差別に繋がる)
- ただし、区分を求める人も多い(分類化による安心)

セクシャリティ③

セクシャリティ 性自認やオリエンテーションの
複合された有り様

人それぞれによって違う！

同じセクシャリティはない！

「セクシャリティ」という 概念は、
性の多様性を保証する重要なキーワード！

セクシヤリティ④

性自認 \ 性志向	男	中間	女
男			
女			

性の非対称性

Q1 ニューハーフ と **その反対**を考えてみよう！

ニューハーフの性自認=女

Q2 ニューハーフとヘテロの女性の差を
考えてみよう！

ニューハーフの性志向 = 男

もう恋なんてしない

[illegible]

映像

フェミニズム①

女性の差別を解放を目指す思考様式

= 女性学 = フェミニズム

ウーマン・リブ (70年代) → 社会運動へ

フェミニズム

- リベラルフェミニズム (男女平等を目指す) (80年代)
 - 文化規範 や 法律改定 へ
- ラディカルフェミニズム (90年代)
 - 男女という規範自体を打ち壊す

↓

徹底的な文明批評・文化批評へ

フェミニズム ②

- フェミニズムの拡大
- ①、法律 (男女雇用機会均等法 等)
 - ②、芸術 (文学・美術等々)
 - ③、社会意識への警鐘 (職業差別・セクハラ等)
 - ④、介護問題
 - ⑤、文化的規範と性差別の問題 (第三世界の女性等)
 - ⑥、様々な学問的成果との関連

(例)

精神分析 … 性差は言語習得と密接な関係
 エコロジー … 男性＝工業＝生産の担い手 → 地球環境の悪化
 美術史 … 男性中心主義的な歴史観

フェミニズム③

夫婦を二つのフェミニズムで考えると……

リベラル 夫婦同権

男の労働 = 家事労働

夫婦であることは温存

ラディカル 夫婦という制度＝国家制度

様々な家族の在り方を阻害する

家族制度を経済学で考える

- ① 夫＝労働の担い手＝生産者
- ② 妻＝夫の再生産の補助
 - ① 肉体的再生産
 - ② 性的再生産
 次世代の再生産の補助
 - ① 子育て
- ③ 子＝次世代の労働の担い手

近代家族制度

近代は、家族を基準に再生産と徴税をおこなうシステム

日本の場合は、父を中心とした「家」制度を採用しているので、**家父長制度**と呼ぶ

(再生産補助) 母 — 父 (税金の担い手)

長女 次男 長男 (次世代)

近代家族制度

制度は、法律と**超自我 (社会倫理)**が支える

家父長的家制度＝武家の風習

↓
 一般人の風習へ

↓
 自由恋愛の風習＝お見合結婚→恋愛結婚へ

ロマンチック・ラブ・イデオロギー

ロマンチック・ラブ (Romantic love) とは一対一の男女の間で結ばれる純愛を指す社会学上の概念である。近代における恋愛の一種の理想としてしばしば扱われ、以下のような特徴を持つ。

- ①、一時の衝動による相手への執着ではなく、人格的な結びつきによる愛情であるが、プラトニック・ラブとは異なり性行為により相手と一体になることを求める。
- ②、経済的、政治的な打算などではなく、純粋に二者間の間にある愛着だけで結びついた関係である。
- ③、常に男と女の一対一ではぐまれる愛情であり、相手以外の者に恋愛感情を向けることなく、二者間の他に性的接触をもたない (モノガミー[「一夫一婦婚」]の精神と通底する)。
- ④、恋愛対象を「運命の相手」とし、一生の恋愛関係にあることが理想とされる。そのため結婚は恋愛感情と結びついたものとして一生維持される。

ロマンチック・ラブ・イデオロギー の歴史は、実は浅い！

- ①、西欧では、18世紀になって貴族社会で芽生え、19世紀に富裕層(金持ち)に広がり、一般大衆に浸透したのは第2次世界大戦後である。それまでは結婚は政治的・経済的行為であり、恋愛とは切り離されていたのである。だからそれまでは人妻の恋が許されていたし、中世の騎士たちは愛する姫をセックスを目的とせず遠くから眺めるだけという恋愛至上主義を当然のこととしていたのである(いわゆる騎士道)。
- ②、欧米では、現在も「ロマンチックラブ・イデオロギー」は根強く、健在である。「なぜ愛していないのにセックスするの」「愛していれば結婚して一緒に暮らすのが当然」と当たり前のように言われる。それは同時に「愛が終われば離婚し、新しい恋愛相手と結婚して一緒に暮らす。それが終わればまた離婚して…」と結婚・離婚を繰り返すことになる。
- ③、日本はどうかという、「ロマンチックラブ・イデオロギーは戦後になって入ってきたものである。1960年代から1970年代に「団塊の世代」が、それまでの見合い結婚は「古い」とし、「新しい」恋愛結婚を実践した。だから我が国でも、ごくごく最近の現象といえる

美しい恋愛の変化

ロマンチック・ラブ・イデオロギー以前

夫婦は、階級的・制度的なきまりごと
純粋な恋愛は、その外でおこる

ロマンチック・ラブ・イデオロギー以後

夫婦は、ロマンチック・ラブの結果(継続)
その継続の具体的な形が「家族」
その外でおこった恋愛は、不純な恋愛(不倫)

つまり、「家族」物語 と「不倫」物語 は、同時発生である！

ロマンチックラブイデオロギー と家族制度

今宵呆然、歓喜に酔っているらしい花嫁に近寄り、

「おめでとう。私は疲れてしまったから、ちょっとご免こうむって眠りたい。眼が覚めたら、すぐに市に出かける。大切な用事があるのだ。私がいなくても、もうおまえには優しい亭主があるのだから、決して寂しい事は無い。おまえの兄の、一ばんきらいなものは、人を疑う事と、それから、嘘をつく事だ。おまえも、それは、知っているね。亭主との間に、どんな秘密でも作ってはならぬ。おまえに言いたいのは、それだけだ。おまえの兄は、たぶん偉い男なのだから、おまえもその誇りを持ていろ。」

花嫁は、夢見心地で首肯(うなず)いた。メロスは、それから花婿の肩をたいて、

「仕度の無いのはお互さまさ。私の家にも、宝といっっては、妹と羊だけだ。他には、何も無い。全部あげよう。もう一つ、メロスの弟になったことを誇ってください。」

花婿は揉(も)み手して、でれていて、メロスは笑って村人たちにも会釈(えしゃく)して、宴席から立ち去り、羊小屋にもぐり込んで、死んだように深く眠った。

ロマンチックラブイデオロギー と家族制度

「ありがと、友よ。」二人同時に言い、ひしと抱き合い、それから嬉し泣きにおいおい声を放って泣いた。群衆の中からも、歓歓(きよきよ)の音が聞えた。暴君ディオニスは、群衆の背後から二人の様子を、まじまじと見つめていたが、やがて静かに二人に近づき、顔をあからめて、こう言った。

「おまえらの望みは叶(かな)ったぞ。おまえらは、わしの心に勝ったのだ。信実とは、決して空虚な妄想ではなかった。どうか、わしをも仲間に入れてくれまいか。どうか、わしの願いを聞き入れて、おまえらの仲間の一人にしてほしい。」

どっと群衆の間に、歓声が上がった。

「万歳、万歳万歳。」

ひとりの少女が、緑(ひ)のマントをメロスに掛けた。メロスは、まごついた。佳き友は、気をきかせて教えてやった。

「メロス、君は、まっばだか(ま)が(ま)い。早くそのマントを着るがいい。この可愛い娘さんは、メロスの身体を、背に見られるのが、たまらなく口惜しいのだ。」

勇者は、ひどく赤面した。

家族は再生する

メロス 家族(兄・妹)の解体

新しい家族(妹・夫) 孤独(メロス)

ヒーロー 孤独である(家族がいらない)

無茶が出来る

メロス 新しい女によるメロスの肉体の所有宣言

新しい家族(メロス・女)

家族は再生されなくてはいけない

ひとつ屋根の下で

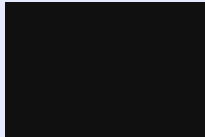
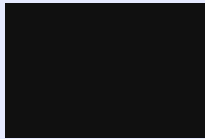
放送時間 1993年4月12日-6月28日 月曜
21:00-21:54 平均視聴率28.2%、最高視聴率
37.8%(第11回)

ストーリー

かつて実業団のマラソン選手だった主人公・柏木達也(江口洋介)が、自身の婚約(のちに解消)を報告するために、7年前の両親の交通事故以来生き別れになった兄弟達を訪ね歩く。最初は達也を拒絶していた兄弟達も徐々に理解を示し、達也の下で暮らすようになる。毎日ケンカばかりしながら少しずつ絆を深めていくが、やがて家族を崩壊の危機に陥す出来事が何度も訪れる。

娘と彼女と彼女の生きる道

2004年1月6日から2004年3月23日までの毎週火曜22:00~22:54(JST)に放送(全12回)された関西テレビ制作のテレビドラマ。ただし、初回は10分拡大で22:10~23:14、最終回は15分拡大で22:00~23:09。平均視聴率は20.8%。略称『僕カノ』。

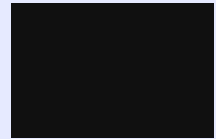


不倫はどうやって純化される?

金曜日の妻たちへ(きんようびのつまたちへ)は、1983年にTBSと木下プロダクション(現・ドリマックス・テレビジョン)が製作し、TBS系列で金曜22時から1時間枠(金曜ドラマ枠)で放送された、核家族間の交流とそこに起きる不倫を題材にした連続テレビドラマである。

大ヒットし、「不倫ドラマ」ブームを巻き起こしただけでなく、社会現象ともなり、このドラマの略称・金妻(きんつま)は「不倫」の代名詞ともなった。

ドラマの舞台となった、東京都の多摩地区や、神奈川県東急田園都市線沿線の新興住宅地も話題となった。



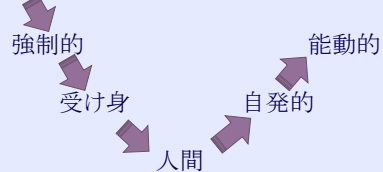
理想的な「家族」は抑圧を生む

理想的な家族 夫 妻 子供

- ①、旧世代への抑圧(介護問題、嫁姑問題)
- ②、パートナー不在家族への抑圧
- ③、子供がいない抑圧
- ④、不倫という形への抑圧
- ⑤、同性愛家族というあり方への抑圧
- ⑥、結婚という形をとらないあり方への抑圧

内面化

本来は、その時代に偶然あった社会制度=超自我によって決められていた風習



人間は、内面化させられていることを忘れちゃう!

ロマンチック・ラブ・イデオロギーの内面化

恋愛の先にある結婚

結婚にはハビトゥス(階級的習慣)がある

生存 中卒・高卒・ヤンキー型
依存 短大・中流以下四大型
保存 一流大出身キャリア型

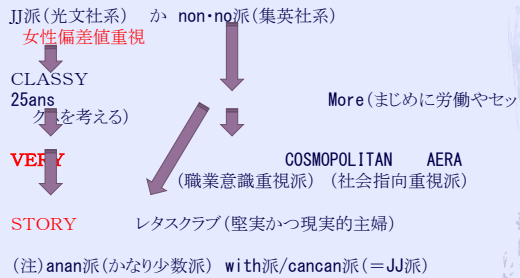
女には二つの出世がある 社長 か 社長夫人
斉藤美奈子『モダンガール論』

東京ラブストーリーや天気予報の恋人が教えてくれること

東京ラブストーリー 天気予報の恋人
1991年 2000年

香山リカ 関口さとみ 深津絵里 稲森いずみ
社長 社長夫人
参考 [東京ラブストーリー](#)

突然ですが、あなたはどっち派？



「VERY」が語る生き方

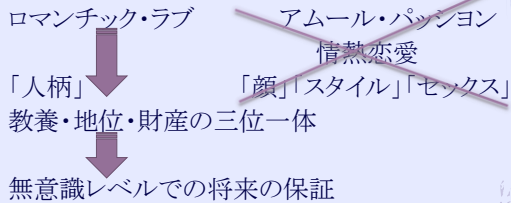


「JJ」「CLASSTY」から「VERY」へ

結婚しても現役 ママになっても社交服
 コンサバだけどカジュアル おしゃれに社会参加

「VERY」が語る生き方②

総合職 > 専門職 > OL > 事務職 > 現職

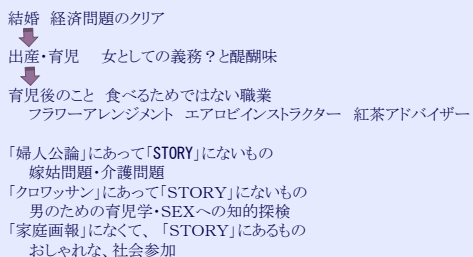


「STORY」の物語

2002年11月 雑誌「STORY」刊行

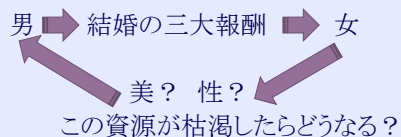
STORY世代ってなに？ (中略) 結婚、出産、子育て、(ときには離婚も)と突っ走ってきた30代を経て、これからが本当にやりたいことに挑戦できる都市。協調性ばかりじゃなくって主体性をもって毎日を過ごしたい！ と思っているあなたがSTORY世代です！

「STORY」の物語②



「STORY」が隠蔽しているもの

保証された年収 達成義務からの解放
 豊富な余暇時間





だめんず・うぉーかー

くらたま の 男観(自然な恋愛)

- ①、笑い等のセンスの一致
- ②、セックスアピール

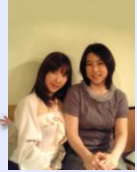
不自然な恋愛

- ①、経済力(金もっててもホストやトラック運転手は×)
- ②、やさしさ(好きなことさせてくれる)
- ③、安定性(急に喫茶店したいとか言わない)
- ④、学歴(内部進学でも全然OK)
- ⑤、まじめさ(家庭を壊さない=浮気しない)

だめんず・うぉーかー②

『西原理恵子の人生一年生』2号

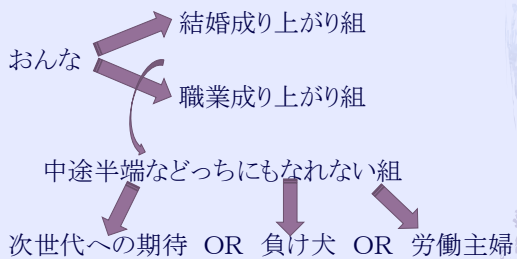
西原理恵子よりうらやましいのは、ヨーコさんのような若くてきゃぴっとしてて親が金持ちとかいう女の子のほうかもしれない



西原のコメント

あたしの歩いている道ねえ、全然違う道だから、あんたいくら走っても前に私いないよ、気づけよ」

女の二つの型から抜け落ちるもの



まとめ

- ① 結婚制度自体を再考する必要がある
解体の方向へ→正田の考え
- ② ロマンチック・ラブ・イデオロギーを再考する必要がある
- ③ ヘテロ的な恋愛を再考する必要がある
- ④ 女性の差別は、個人的な問題ではなく、社会的な仕組みであることを意識する必要がある